

事業研究委員会

一 テーマ

研修（教育会活動）へ参加する時間や意欲を確保するために、働き方改善につながる事例について、調査や実践を行い、研究の成果を発信することで、教職員の校務負担軽減を図る。

二 テーマ設定の理由

昨年度から、本委員会では、研修や教育会活動への参加につながるとして、「働き方改善」に注目し、研究を行ってきた。そして、Google アプリケーションや自動採点システム、メール配信サービスによって、校務の負担軽減や心理的な負担軽減が生まれることが明らかとなった。そこで、それによって生まれた時間や心理的な余裕が研修や教育会活動への参加にさらにつながっていくために、今年度も継続して調査と実践を進めることとした。

三 研究の経過

- (1) 調査活動（5～7月）
 - ・働き方改善につながる取り組みの事例調査
 - ・学校業務の問題、悩みの情報交換
- (2) 実践（8～11月）
 - ・夏期研修での情報交換と自動採点システムの研修
 - ・調査を基にした各所属校での実践
- (3) 分析（12月）
 - ・委員による実践報告と調査結果の考察
- (4) 発信（1～2月）
 - ・研究のまとめなどによる研究成果の発信
 - ・リーフレットの作成

四 研究の内容

年度当初に委員同士で、現在の学校業務の問題、悩みの情報交換や働き方改善につながる事例について意見を出し合ったところ、「テストの採点やルビふりに時間がかかる」という意見が出された。それについて、自動採点システムやルビふり用のアプリケーションを使えば、時間が短縮され、働き方改善につながるのではないかと考え、研究を行うこととした。

1. 自動採点システム「採点ナビ」

自動採点システムには、いろいろな種類があることがわかったが、その中でも上田五中で昨年度から採用している「採点ナビ」に注目した。実際に夏期研修として、採点ナビの使い方について説明を受けたり、実際に使ってみたりした。また、委員が各校でお試し版をインストールし、定期テストの採点に利用している。実



↑自動採点システム「採点ナビ」の実際の採点画面

際に使用してみると、合計点数の計算が自動で行われるので、採点時間の短縮につながることもわかった。また、問題ごとの正答率などの分析もとても便利だった。

2. ルビふり用アプリケーション「ふりがな PDF」

ルビふり用のアプリケーションは「ふりがな PDF」というものを利用している。プリントなどを PDF で取り込み、このアプリケーションで開くと自動でルビふりがされる。夏期研修で利用した際に PDF の取り込みがカメラで写真を撮るだけ良いことがわかった。現在は、委員が定期テストのルビふりなどに利用している。3年生の総合テストなど、問題の文章が多く、今まではルビふりに1時間以上の時間がかかっていたが、このアプリケーションを使うと約半分の時間で済むようになった。ただ、誤字があるので、確認や修正をする必要があるが、十分に働き方改善につながることもわかった。

【問1】 次の各問いに答えなさい。

I GさんとMさんは、植物の光合成と呼吸について調べるために、次の観察と実験を行った。以下の問いに答えなさい。

【観察】

じゅうぶんに光を当てたオオカナダモの葉を採取し、薬品aで処理して脱色した。その葉を水ですすいだ後、スライドガラスにのせ、薬品bを1滴落として細胞のようすを顕微鏡で観察した。その結果、葉の細胞内に青紫色に染まった小さな粒が多数見られた。

【実験1】

青色のBTB溶液に息を吹き込んで緑色にしたものを、図1の3本の試験管A、B、Cに入れた。図1のように、3本の試験管のうち、試験管AとBのみに同じ大きさのオオカナダモを入れ、全ての試験管にすぐにゴム栓をふたをした。また、試験管Bはアルミニウムはくをおおい、光が当たらないようにした。3本の試験管に一定時間光を当てた後、BTB溶液の色を調べた。表1は、その結果をまとめたものである。

また、試験管Aでは光を当てた後、気体が発生していることが分かった。ゴム栓を外し、発生した気体に線香の火を近づけると、火が大きくなった。

図1

表1

試験管	A	B	C
光を当てた後のBTB溶液の色	青色	黄色	緑色

↑ルビふり用アプリケーション
「ふりがな PDF」によるルビふり

五 研究のまとめと課題

・研究のまとめ

今年度の取り組みとして、働き方改善につながると考えられる自動採点システムやルビふり用のアプリケーションについて研修を行ったり、実際に使い始めたりしてきた。実際に使ってみるとそれぞれ良さがあり、働き方改善につながることもわかった。ただ、慣れないうちは時間がかかったり、わかりづらいところもあったりするため、使い方の研修や実際に利用していくことが必要だと感じた。また、知らないでいる先生方も多いので、委員会として研究を行ってきた内容を積極的に発信していきたい。そして、実際に興味をもった先生方から利用していただくことで、少しずつ広まり、働き方改善につながっていくことを期待している。最近では、自動採点システムについて、上田市内で関心が高まってきているので、利用が広まっていくように情報教育主任会やICT支援員の方と協働的に事業を進めていけると良い。



夏期研修の様子

・課題

働き方改善によって、研修（教育会活動）へ参加する時間の確保はできるかもしれないが、実際に参加につなげるためには、教育会で研修することの魅力、研修の種類や内容などについてさらに発信をしていく必要があると感じた。先生方に教育会の活動や研修を知ってもらい、興味をもってもらうことが、教育会を盛り上げていくための第1歩なので、どのようにこれらを発信していくのが今後の課題である。